



院長 宮田 剛

当院の医師事務作業補助者（クラーク）の歴史は平成 20 年の 10 名採用から始まり、現在 57 名がそれぞれの部門で活躍しています。私が8年前に当院に赴任した時には、すでに外来で診察補助として様々な書類作成の下書きを書いてくれたり、検査や再来予約などの調整もしてくれて、「なんて助かる人達なのだ！」と感激したことを思い出します。そういえばアメリカの病院では、秘書（secretary）と呼ばれる人たちがやたらと多いと20 年ほど前のことを思い出し、それぞれの強みを生かした職場環境の先進事例が遂に日本でも現実化してきたのだと感慨深いものがありました。現在、当院のクラークも横並びの従属的な雇用ではなく、クラークリーダー 2 名を中心として教育・研修制度も確立してしっかりと質を担保した業務ができる体制が整ってきています。今後も感謝が連鎖する働き甲斐のある職種として活躍し続けていただきたいと期待しております。

医療クラーク（医師事務作業補助者）は医師の事務的業務をサポートする職種です。業務内容は大きく4つに分けられます。

1. 診断書等の医療文書作成補助
 2. 診療記録の代行入力や検査オーダー代行入力
 3. 診療データなど医療の質向上に資する事務
 4. 厚生労働省へ報告する診療データなど行政上の業務
- この4つの主な業務に加え、診療科の特徴的な業務を行っているクラークを紹介します。

臨床研究・データ収集について

血液内科 佐々木 滋子

①血液内科では様々な臨床研究に参加しておりますが、2 年にわたり白血病患者さんの内服投与量に関する研究に携わったことが一番心に残っています。私は、対象患者さんの書類の準備、診察・検査スケジュール管理・検査オーダー、検査結果の収集などを行ってきました。②プロトコルを理解して患者さんの状況を把握し、先生とのやりとりに追いつくことは大変でしたが、疾患に対する知識が増えたことや、その後の自身の仕事への取り組み姿勢に繋がっていると感じています。③研究が論文となって発表されたとき、そこに関わることができて嬉しかったです。④分からないことをそのままにせず自分で調べたり、効率よく仕事を進めるために自分なりに工夫したり、主体性を持って業務に取り組むように心がけています。

転院調整について

整形外科 齋藤 麻紀子

①当初は、リハビリ転院を受け入れてくださる病院との連絡調整から必要な書類の準備までクラークが行っていましたが、現在は転院調整看護師さんとの役割分担ができて転院に必要な情報提供書や添付資料の作成を行っています。②地域連携や転院に関するノウハウが全く無い状態からスタートしたため、ご迷惑をお掛けしたこともあるかと思いますが、転院先のスタッフさんから教えていただくこともたくさんあり、大変感謝しています。治療経過だけでなく、患者さんの体の状態や家族背景なども大切な情報であることを学びました。③入院 - 手術 - 転院 - 通院と患者さんの経過に一連で関わることができることです。④スムーズに転院ができるように準備すること、そのためにはスタッフ間の情報共有が大切だと感じています。



イラスト：熊谷有桂

- ①〇〇に関する業務について教えてください。
- ②苦労したこと・大変なことは何ですか。
- ③やりがい・喜びを感じるのはどんなときですか。
- ④努力したことはなんですか

脳卒中地域連携パスについて

脳神経センター 細野 睦、戸田 有子、竹田 輝美

①「パス」とは、急性期病院（当院）からリハビリ回復期病院、そして自宅（施設）まで患者さんがどのような治療、ケアを受けたかが分かるように、各施設で記載し受け継ぐ「パスする」診療情報です。私たちは、脳卒中パス医師用（医師記載部分）への追記・脳卒中診療情報提供書作成と検査や画像のデータを準備しています。②転院出発までに作成しなければならないので、毎日が時間との戦いです。急な転院決定や書類が揃わない場合には、朝早く出勤して対応しています。③忙しいですが、「患者さんを無事にリハビリ病院へ送り出そう」という思いを全員で共有しているので、「脳センター」の一員になっているという実感があり、やりがいがあります。④転院が滞りなく行えるよう、常に関係部署との連携を大切にしています。



当院では毎年4月に新採用者を数名採用し計画的に育てています。その中で、先輩クラークと一緒に成長「共育」することを目指しています。その取り組みの一部を紹介します。

①クラーク一斉研修とホスト診療科での実践研修



◎基礎研修・・・当院職員・公務員としての服務、医療関係法規等の研修

◎一斉研修・・・研修班を中心に医療クラークとして必要な電子カルテ操作や基礎的な業務内容の研修

◎実践研修・・・一斉研修で学んだ業務内容を、ホスト診療科（研修先）で習熟を図る2か月の研修中にクラークリーダーと面談を行い、研修の様子や業務の習熟度を確認した上で診療科の所属を決定します。

②キャリアパスの作成と面談の実施

医療局のキャリアパスに則り、独自のものを作成、当院のクラークが習得していなければならない業務内容を明確にしました。

年1回全員面談を行い、キャリアパスに基づいた個人の目標を確認しています。

③学会やセミナー派遣（医療局研修、日本医師事務作業補助研究会等）

経験を積んだクラークは、医療局の研修に参加し研鑽を積んでいます。昨年は、研修の一環として、日本医師事務作業補助研究会の全国大会を聴講し、各自の業務に還元しています。

④マニュアル作成や業務内容・働く環境の改善への取り組み

マニュアル班は新採用者が研修で使用するクラークマニュアルを定期的に改訂し、常に新しい情報に更新しています。改善班は、クラーク全員が業務しやすい環境作りや接遇の改善に向けて取り組んでいます。



「院内感染対策サーベイランスシステム・手術管理システム ORSYS」

ICU科：宮田友利恵、麻酔科：伊藤めぐみ

①「院内感染対策サーベイランスシステム」とは、院内感染症発生状況や薬剤耐性菌による感染症の発生状況などを厚労省に送信し、国内の院内感染の概況の把握、有用な情報のフィードバックを目的とするシステムのことで、クラークはほぼ毎日このシステムに基本情報を入力しています。麻酔科では、「ORSYS」の特殊検索機能システムから、薬剤部や情報管理室で必要としているデータを抽出したり手術データの管理をしたりしています。②ICUも麻酔科も毎日欠かさない業務なので、お互いに協力し合い絶対にミスがないように注意を払っています。③重症だった患者さんが、無事退院されたと知ると嬉しです。④わからないことは納得するまで先生や看護師さんに確認しています。今後もクラークとして自信をもって業務を行いもっと医師を助けていきたいです。

腎移植について

腎臓・リウマチ科 佐々木ユリ、木村有希子、古坂恵子

①腎移植データベースへの入力、周期期～移植後の定期外来通院に必要な検査やデータの管理を行なっています。②立ち上げの際に、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院に見学に行かせていただきました。クラークが活躍している様子を目の当たりにして、不安になりましたが、勉強しながらできることを一つ一つ増やしてきました。③漠然と「腎移植」という言葉は知っていましたが、実際に腎移植をするまでに様々な条件や検査が必要であり、レシピエントとドナー、2人を支える家族を含めて腎移植は家族医療なのだと知ることが出来ました。一例目の腎移植終了後、腎機能が改善しているのを目の当たりにし、これほどまでに変わるのかと感動しました。④先生方や看護師さんが職務に専念できるよう今後もサポートしていきます。

当院にクラークが導入されてから2022年で14年が経ちました。新たに6名の仲間を迎え総勢57名での新年度スタートです。さて、今年の診療報酬改定で、「医師事務作業補助体制加算」も大きく改定がありました。内容についてはクラークの実務経験年数に着目した評価となり、「量よりも質」へ変化しています。医師事務体制加算がスタートしてから常に増額していることは、医師の負担軽減の一助となってきていることを評価していただき、そしていよいよ2024年から本格導入される「医師の働き方改革」に向けての期待値が含まれているのではないかと感じています。実務経験3年以上のクラークが68%にもなる当院は、当然それなりの質の担保がもとめられているのでしょう。このことを一人一人

が理解して、自分にとって「質の向上」は何かを真剣に考えなくてはならない転換期なのかもしれません。3人のレンガ職人のお話を思い出しました。建築現場でレンガを積んでいる3人の職人に「何をしているのか？」と尋ねるあのお話です。1人目は「そのように言われたからやっている」2人目は「お金を稼ぐためにやっている」3人目は「歴史に残る大聖堂を作っている」と答えます。3人目の職人のように先を見て目的を持って働く「質の向上」につながっていくと思います。そういうマインドをもって働く集団になっていきたいものです。

クラークリーダー 阿部 真奈美

【医療クラークの募集について】

医師事務支援室 主任 吉田朗

当院では、原則として年 1 回、医療クラークの募集を行い、毎年 4 月に数名を採用しております。来年度については、今年の秋に募集を行い、書類選考及び面接試験等を行う予定です。現在は 57 名の医療クラークが各診療科で活躍しておりますが、将来的には段階的に更に二十名程度増員し、多忙な医師の事務負担軽減を図っていく計画です。

医療クラークとしては、①人の役に立ちたいと思う方、②几帳面な方、③学ぶことが好きな方（知ることに楽しみを見いだせる方）、④医療（人体の不思議さ）に興味がある方などが向いていると考えております。パソコンのスキルも求められます。採用後 2 ケ月間綿密な新採用研修を行い、その後は各診療科に配属され先輩クラークの指導の下、一連の業務ができるようフォローしていきます。異業種からの転入でも十分に適応できますので、ご安心ください。

待遇面も、以前の制度に比較し、給与制度面の改正や地方職員共済組合への加入、休暇面の充実などが図られております。採用後はご本人の働く意欲と能力があれば、再任用の手続きはありますが、転勤とかはなくずっと継続的に働ける職場です。現在、最長で 14 年の勤務経験者が数名おり、エキスパートな医療クラークとして活躍しております。